

シートマルチ栽培およびフィガロン乳剤の散布が ‘トサブンタン’の果実品質に及ぼす影響

澤田定広

Effect on Fruit Quality of Sheet Mulch Cultivation and Spraying
Ethychlozate on ‘Tosa-buntan’ (*Citrus grandis* OSBECK forma *Tosa-buntan*)

Yasuhiro SAWADA

要 約

樹冠下の地表を満開後約 100 日（8 月中下旬）～200 日（11 月下旬）まで白色透湿性シートで被覆（以下、シートマルチとする）して降雨を遮断する処理とフィガロン乳剤（エチクロゼート 20%含有）を立木全面散布する処理が、平坦ほ場植栽のカラタチ台‘トサブンタン’の果実品質や樹体に及ぼす影響について検討した。

1. フィガロン乳剤を満開後 50～80 日と 80～110 日の 2 回、30 日間隔で散布することで、夏秋梢伸長が抑制され、Brix 値が向上した。
2. フィガロン乳剤の散布濃度は、1,000 倍で 2,000 倍より糖度向上効果が高かった。
3. フィガロン乳剤の単用でも、秋季に乾燥する年では糖度向上効果が認められた。
4. フィガロン乳剤の 5 ヶ年連用による樹勢の低下は認められなかった。
5. フィガロン乳剤とシートマルチを併用することで秋季の天候に左右されずに安定して糖度向上が図れた。

キーワード：トサブンタン、フィガロン乳剤、エチクロゼート、シートマルチ、品質向上